

トウエピラ

令和8年3月17日

札幌市立八条中学校

学校だより第5号



第70回 卒業式

式 辞

校長 小林 大介

ここ豊平の地にも柔らかな日差しが注がれ、春の足音が一步步近づいていることを感じられる今日の佳き日に、札幌市立八条中学校第70回卒業式を、PTA会長様をはじめ、同窓会長様、近隣小学校の校長先生、学校評議員の皆様、PTA役員の皆様、そして地域、関係機関の皆様をお迎えして挙行できますことに、教職員一同、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業生242名に卒業証書を手渡しました。中学校三年間で培った様々な力が、その堂々とした姿に現れ、頼もしさを感じました。それぞれのまなざしが、しっかりと未来を見据え、希望に満ち溢れ、これからの札幌市そして新しい社会を担う存在になってくれることを確信した瞬間でした。私は、卒業生の皆さんとの学校生活が、一年間という短い時間でしたが、日々その成長を強く感じてきました。八条中学校での三年間は、保護者の皆様や地域の皆様に支えられ、仲間とともに成長する素晴らしさを学ぶことができたと思います。これからも、仲間や家族、そして地域や周りの人たちを大切に成長を続けてほしいと願っています。

卒業生の皆さんのこの一年間を振り返ると、あらゆる活動や行事において、全力で取り組み、全員でその場を楽しんでいるという姿が印象的でした。どの活動を見ても、「八条中生らしさ」を感じていました。これまでの伝統を引き継ぎ、さらに新しい伝統として後輩に残してくれました。

私はいつも卒業生の皆さんに、三つの「八条中生らしさ」を感じていました。一つは困っている人を助けたり人の気持ちになって行動したりするといった「人を思いやる気持ち」です。日常生活でも互いに声を掛け合い、助け合う優しさを感じていました。二つ目は各行事で見せてくれた「仲間と協力して物事を進める態度」です。一人の力は大きくなくても、クラスや学年が集まると、とてつもない大きなエネルギーになることを教えてくれました。三つ目が「さわやかで気持ちのよい挨拶」です。毎日廊下で「おはようございます」「こんにちは」と気持ちよく挨拶してくれました。人と人がつながる最初の行動が挨拶です。心のつながりを感じさせてくれました。「思いやり」、「協力」、「挨拶」この三つの姿はどこかに記されているわけではありません。しかし、しっかり受け継がれ、後輩たちにもバトンを受け渡してくれたと思っています。この「八条中生らしさ」はどんなに時代が変わろうとも人として大切なものです。

三年生の皆さんは今日、八条中学校を卒業しますが、これからはそれぞれの意思で「自分らしく」生きてください。この先の長い人生、すべてがうまくいくとは限りません。苦しいことや困難に行く手をふさがれることもあるかもしれません。そんな時こそ「自分らしさ」が大切になってきます。自分の好きなこと、自分のやりたいことは何なのか、自分の心が動くことは何なのか、自分に問いかけてみてください。自分の声に耳を傾けてください。そうすれば多少の困難や苦しさを乗り越える力が湧いてくると私は信じています。

昨年開催された大阪・関西万博の55年前、同じ大阪で日本万博が開かれました。そのシンボルである「太陽の塔」をデザインした岡本太郎が残した言葉に、自分らしく生きることの大切さが込められたものがあります。

『他人が笑おうが笑うまいが、自分の歌を歌えばいいんだよ』と。

さらに岡本はこうも言っています。『人間にとって成功とはいったい何だろう。結局のところ、自分の夢に向かって自分がどれだけ挑んだか、努力したかどうか、ではないだろうか』と。

これからの社会はこれまで以上に変化の激しい時代を迎えるといわれています。しかし、どんなに世の中が変化しても、大切なことは、自分を信じ、夢をもち続けることです。卒業生の皆さんには、八条中学校で育てた心を大切に、自分らしく夢に向かって歩いてほしいと願っています。あなたの人生の主演はあなたです。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。この三年間、本校の教育活動並びにPTA活動に多大なる御協力と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。私たち教職員は、お子様の成長のために精一杯努めてまいりました。4月からは八条中学校から巣立ち、新しいステージへと飛び立ちますが、これからもすべての教職員で応援し続けたいと思っています。

結びになりますが、卒業生の夢や希望があふれる第70回卒業式に御列席いただきましたすべての皆様に、感謝の気持ちをお伝えし、式辞といたします。



祝 辞

PTA会長 ○○ ○○

本日、八条中学校を卒業される卒業生の皆様、保護者の皆様、誠におめでとうございます。

今日こうして子ども達が無事中学校三年間の学業をおさめ、この八条中学校で卒業を迎えることが出来たのも、日々子ども達のことを思い、熱心に御指導して頂きました校長先生をはじめ、教職員の皆様、毎日の登下校を見守って頂いた地域の皆様や保護者の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

また各小学校の校長先生をはじめ、御来賓の皆様、本日は御臨席を賜り誠にありがとうございます。

子ども達のために日々御尽力頂いておりますことを、この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

保護者の皆様には、15年間、これほどまでに立派に育て上げられ、本日、義務教育修了という大切な節目を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

さて、卒業生の皆さんへ保護者を代表してお話しをさせていただきます。

入学当初はまだ幼かった皆さんの表情も、今は凛々しく、大きく頼もしい姿になり、この三年間での成長を誇らしく思い、無事に中学校卒業を、こうして仲間達と席を寄せ合い、共に皆で迎えられたことを大変嬉しく思っています。

この三年間、楽しいことばかりではなかったと思います。部活動で悔しい思いをしたこと、友達との関係で悩んだこと、勉強に苦労したこと。皆さんは、その一つ一つを乗り越えながら今日の日を迎えました。乗り越えることが出来た、ということは挑戦し続けてきた証です。本当に三年間よく頑張りました。八条中学校を卒業しても「これからもたくさんの挑戦を続けられる人」でいてほしいと思います。新しい環境で、うまくいかないことや、失敗することもあるかもしれませんが、挑戦してうまくいなくても、必ず将来役に立つ素敵な「経験」になります。

私は16歳の時、自信がなくて挑戦しなかったことがあります。

大人になって振り返ると、挑戦しなかったことに後悔し、その後悔が人生の力になりました。今は逃げずに挑戦すること、そして、人生の選択は自分で決めることを大切にしています。

それぞれの道に進んでも、地元に戻ればここにいる仲間がいます。これからも共に励まし合い、助けが必要な時には支え合える八条の仲間であってください。

これから先、どんな時代になり、どんな出会いが待っているのか。保護者としては少し不安もありますが、今の皆さんならきっと、どんな環境でも柔軟に対応し、優しく強い心で前に進んでいけると思っています。自分を信じ、自信をもって人生を歩んでください。皆さんのつくる未来を、先生方、そして私たち保護者一同、とても楽しみにしながら応援しています。

最後になりますが、皆さんと関わる時間の中で、保護者として、そして大人として多くのことをたくさん考えさせてもらった、学ぶことの多い素敵な時間となりました。本当にありがとうございました。皆さんの未来が、挑戦と希望にあふれた素晴らしいものになることを心から願っています。御卒業、誠にありがとうございます。



送 辞

在校生代表 ○○ ○○

陽の光やそよ吹く風の温かさに春の訪れを感じる季節となりました。本日、八条中学校を卒業される3年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。3年生のみなさんの晴れやかな姿を目の前にし、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

生徒会の先輩方と頭を悩ませながら考えた新入生歓迎会のシナリオが完成したときに、疲れ果てた表情をしながらも、弱音を吐かずに最後まで取り組んでいた先輩の背中を間近で見えていたからこそ、最後までやり遂げたときの達成感がとても大きく、最後まで頑張ることの大切さを、私は先輩方から教えていただきました。その頃は生徒会の仕事を行っていただけのつもりでしたが、先輩とのかけがえのない時間を過ごしていたのだと、今になって気づきました。廊下ですれ違ったときに笑顔で話しかけてくれたり、部活動や委員会で優しく教えてくれたりした3年生。在校生にとって、どの瞬間も最高の思い出であり、感謝の気持ちでいっぱいです。また、先輩方が歌う合唱は迫力があり、最高学年としてのかっこいい姿やパワーを感じることができました。みなさんの合唱を聴けるのが今日で最後なのはとても寂しいですが、その分、先輩方を見せてくれた大きな背中を「憧れ」で終わらせるのではなく、私たちが誰かの憧れになれるよう、先輩方の姿を一步ずつ追いかけていきたいと思います。

これから先、一人で不安になり、心に余裕がなくなってしまうたり、上手くいかずに悩んだりする時があると思います。そんなときは、中学校生活で培ってきた「周囲を巻き込み、盛り上げる力」や「場を明るくする笑顔」などの先輩方の強みを武器に、様々なことに何度も挑戦して、後悔のないような高校生活を過ごせることを心から願っています。

最後になりますが、どんなときもみなさんの味方であり、心から応援している後輩がいることを忘れないでください。先輩が歩いていく道がいつまでも明るく輝くものになることを願い、在校生代表の送辞とさせていただきます。



答 辞

卒業生代表 ○○ ○○

寒い冬が終わり、背を押す春風の温かさを感じられる季節になりました。

本日は、私たち卒業生のために、この華やかな卒業式を挙げてくださった教職員の皆様をはじめ、御多忙の中、御臨席くださいました御来賓の皆様や保護者の皆様へ、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

入学してきた頃の私たちは、全てのことが新鮮に感じました。不安なことばかりの勉強、放課後に汗水流した部活動、先輩との委員会など、新たなことばかりでした。右も左もわからないながら、どんなことにも全力でした。初めての定期テストで必死になったり、部活動の大会で緊張していたことは、今ではいい思い出です。初めての大会では、練習通りの動きが全然できずに焦っていたのを覚えています。

そんな中、顧問の先生からのアドバイスや同じ部活動の仲間たちの応援は、自分の支えになっていました。苦勞したことや大変なことがありましたが、体育大会や学校祭などのかけがえのない思い出もたくさんできたと思います。学校祭のオープニングや、吹奏楽の演奏についてジャンプして盛り上がったりと面白おかしかったこ

とを覚えています。

2年生からは学校生活にも慣れ始め、心身ともに大人になっていきました。宿泊学習では、自分たちで計画を立てて行きました。しっかり計画を立てたつもりでしたが、案外お店が混んでいたりと、硝子工房が魅力的で長時間滞在してしまいました。思い返してみると、昨日のこのように覚えています。班内で計画したことで仲間に頼ることの重要さや常に先を見据えて行動する意識づけが育ちました。そして、仲間と協力し合って何かをすることの楽しさを知り、また一つ大人に近づいた気がします。

そして、時間の流れがあつという間の3年生。培ってきた学びを活かして行った旅行的行事、修学旅行。朝から晩までワクワクしていた日でした。部屋で語り合った雑談や夕食時の談笑などのなんてことない会話が忘れることのない思い出になっていると思います。それから受験勉強の時期になり、不安な気持ちがありながら、必死に勉学に勤しんでいました。辛いときがあっても難しい応用問題を仲間と一緒に理解しようとしたり、休み時間に問題を出し合ったりと、共に頑張れる仲間がいました。大変な中、お互いを鼓舞し合える仲間は、今ではもう大切な宝物です。

初めの頃にくらべて大きく成長してきた3年生。いよいよ私たちはこの学び舎を旅立ちます。何度も着た制服を身にまとい、期待や夢を胸に自分が望む未来に向かって歩み始めます。私たちはそれぞれ選んだ道を進みます。この3年間に一つたりとも無駄な時間なんてなく、失敗も弱さも全部自分の大事な一部です。

悔しさや後悔も自分の糧にして一歩、また一歩と踏みしめて、また一つ大きく成長していきます。そして、これからも精一杯努力することをやめず、今よりも笑える日々のできることを願っています。

私たちがここまで成長することができたのは、支えてくださった在校生のみなさん、挑戦することに背中を押してくれた先生方、正しく前を進めるように見守ってくださった保護者の皆様がいてこそそのものです。3年間で多くの思い出、仲間や経験、目標を得ることができました。そして、親身になって教えてくれる勉学、大会で勝つためのアドバイス、感謝してもしきれないほど多くのことを先生方から学びました。そして何より、朝に起きると朝食があること、洗濯されたジャージを着られていること。当たり前にも思えてしまう保護者の大きな支えが今の私たちを形ついています。どんな日でも私たちの味方でいてくれた先生方、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

最後になりますが、本日御臨席いただいた皆様への感謝と共に、八条中学校のますますの御発展を祈念して、答辞といたします。

